

中学生は部活などで忙しい時が多いと思います。忙しいからこそ、いつも本を持っていて、移動の合間などのちょっとした時間に本を読む習慣をつけましょう！

紙の本なら
バッテリーの
残量を気にせ
ず読めるのも
いいですし、お
気に入りの本
がかばんの中
にあるって素
敵ですね。



いよいよ三月です。この一年、たくさん本を読めましたか？心に残った本はありましたか？あまり読めなかったなあ…と思ったら、今から一冊読んでみましょう。手元にある本でも良いですし、やまなみ号や市立図書館に行つて、一冊手に取ってみてください。もしかしたら、夢中になれる本に出会えるかもしれませんよ。

卒業・進級おめでとう！

返却忘れ、ありませんか？

名張市内小中学校の春休みは、本の貸し出しがありません。3月中に必ず返却しましょう。また、長い間借りっ放しの本はありませんか？特に3年生は卒業までに返すことを忘れないようにしましょう。何年も前の卒業生が借りていた本を持ってくることもあります。かばんの中、教室、机の中、家の中、よく確認してください。もし、自分が本を借りているかどうか分からなかったら、図書室でいる学校司書や図書委員会の人に聞いてみましょう。



忘れずに
返却しましょう！



名張市学校図書館だより 中学校版 平成三十年三月 年度末号 発行…教育センター

今回のおしらせ
●返却しましょう
●人気の本紹介



一年間、図書室に来てくれてありがとう！



君たちはどう生きるか

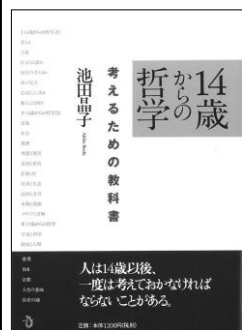


宮崎駿さんの新しい映画のタイトルが発表されたことで、にわかに注目を集めている本があります。それが『君たちはどう生きるか』（著：吉野源三郎 発行：岩波書店・マガジンハウス）です。この本は、1937年に子どもむけ倫理（人として守り、行ふべきこと）の本として書かれましたが、81年たった今でも色あせることのない内容です。この本にちなんで、「生きる・考える」ことの本を紹介します。春休み、少し「生きる・考える」について考えてみませんか？



『ぼくのニセモノをつくるには』 作：333 333 発行：ポプラ新社

やりたくないことだらけのぼく。ある日、いいことを思いついた。ぼくのニセモノに全部やらせてもらおう！そのためには、自分のことを知らなきゃならない。ぼくの好きなもの、苦手なもの、できることとできないこと…。自分とは何か？自分の考えていることは、自分にしか分からない。自分の中には、誰も入ってこれない、自分だけの世界がある。自分に向き合ったこと、ありますか？



『14歳からの哲学 考えるための教科書』 作：池田 晶子 発行：トランスビュー

『人は、14歳以降、一度は考えておかなければならないことがある。』
「学年ビリのギャルが1年で偏差値40上げて慶応大学に合格した話」（著：坪田 信貴 発行：KADOKAWA）の中で、先生がさやかちゃんにすすめていた本の一冊です。「考えるとは何か？」「知ることとは何か？」「勉強することとは何か？」今読んで意味が分からなかったとしても、必ずいつか思い出して「あ！そうか！」と思える時がくることでしょう。



『ニーチェが京都にやってきて 17歳の私に哲学のこと教えてくれた。』

作：原田 まりる 発行：ダイヤモンド社

『ツァラトゥストラはかく語りき』で有名な哲学者のニーチェが、17歳の女子高生に、哲学のなんたるかを語るライトノベル（軽小説）風哲学書。歴史上の名だたる哲学者たちを現代風にすると…？ニーチェ…熱中しすぎるタイプのスマホアプリ開発者、キルケゴール…ミステリアスな読者モデル、ショーペンハウアー…クラシック喫茶を営む頑固オヤジなどなど…。現代によみがえった（？）彼らと、「生きる意味」を考えてみよう。

編集後記



今年は「君たちはどう生きるか」をはじめ、小学校では「学校では教えてくれない大切なこと」シリーズ（旺文社）など、『哲学』つまり、いろいろなことを考えてみる、というテーマの本がよく貸し出されていました。最近は何かがあればすぐに答えをネットで調べられるので、自分で考えるということが少なくなっているような気がします。こういう『考える』ことの本がたくさん読まれている、というのはとてもうれしいことだと思います。これからもたくさん本を読んで、たくさん考えて、たくさん学んでほしいです。